

米欧亜回覧

第44号

発行

特定非営利活動法人

米欧亜回覧の会

編集 総務部会

設立十周年記念・国際シンポジウム

「世界の中の日本の役割を考える」

―開催に向けて助走へ

十周年記念・国際シンポジウムまであと二ヶ月となり、いよいよ開催に向けて助走段階にはいった。目下、各幹事が実行委員となり、それぞれゲスト講師との折衝、プログラムやチケットの印刷、会場の手配、確保、運営進行その他の準備をすすめている。

そこで、会員のみなさまにも積極的に参加し協力していただきたく、アンケートはがきを送付して回答をもらうことになった。とりわけ十一月二十五日(土)の公開フォーラムは、大変価値ある内容が



国際シンポジウムの会場となる
学術総合センターホール(右)
新装なった国際文化会館(左)

期待されるので、五百席を満杯にしたい。会員各位の参加はむろんのこと、知人、友人など熱心な勧誘をお願いしたい。(詳細は四頁)

グローバルジャパン研究会

発足!

「国際シンポジウム」に関連して、かねて申請中のサントリ文化財団から研究助成を受けることができたため、八月より泉三郎氏を主幹として特別研究会が発足した。これは「世界のなかの日本人の役割―西洋的近代化を越える思想を求めて」をテーマとする研究会で、国際シンポジウムと併行して来年三月まで続けることになる。

DVD 岩倉使節団の米欧回覧

九月下旬、リリース!

四月の全体例会で曲がりなりにも試写までこぎつけたDVDだが、その後、画面の補

充や修正、付録資料「肖像アルバム」の収集・制作などに時間がかかり、完成が大幅におくれていた。その間、制作担当の足立光正氏の大変なご苦労があったが、ようやく完成に至った。

そして、八月二十六日(土)には、日本記者クラブ主催の「試写会」が行われて大好評を博し、九月二十一日に慶応義塾大学出版会から発売されることになった。

なお、特別賛助金をいただいた方には、贈呈扱いで近日中に届くはずである。(詳細は三頁)

ホームページ

リニューアル!

かねて要請されていた「ホームページ」の改訂は諸般の事情から遅れていたが、このたび幹事の楠木孝雄氏や会員の相沢真人氏の尽力により一新されることになった。当初のホームページがむしろ会員向けの内向きのものだったのに対し、今回のリニューアルではより外向きのものになる。

また、トップページから五ページまでは専門のデザイナーに委嘱して、美しい魅力あるものとなり、内容についても随時担当幹事が更新することになっていく。アクセスできる方は十月一日以降、ぜひ開いてみてほしい。(詳細は五頁)

九月二日、東京有楽町の朝日ホールで、『国際シンポジウム「茶の本」の百年』が開催された。『THE BOOK OF TEA』が一九〇六年に出版されてちょうど百年になるからである。以来、この本は各国語に訳されて版を重ね、わかりにくい東洋の哲学を「茶」に託して説いた本として、日本人の考え方を世界に伝える意味で大きな役割を果たしてきた。

西洋文明の限界と東洋文明の理想 ―岡倉天心「茶の本」から100年

泉 三郎

られた視野から近視眼的なものに見方しかしていなかったのに対して、天心は、はるかから広い視野―さまざまな文明から成り立つ世界全体および数千年に及ぶ歴史の流れを見据えた視野や大局的なものを見方をしたのであり、その上で近代化、西洋化の路線には限界があり、その限界を乗り越えるには伝統的東洋文明理想に還ることが不可欠とみなしたのです」とし、「共生」、「エコロジー」などの思想的先駆がここにあると書いています。

顧みれば二〇〇三年十月、当会ではドナルドキーン氏や松本健一氏を招いて、日米交流百五十年記念シンポジウム「アメリカングローバルバリゼーションと日本のアイデンティティ」を開催している。その中で松本氏は開国以来「英語で日本を紹介した本は三冊しかない」として、新渡戸稲造の「武士道」、内村鑑三の「代表的日本人」、岡倉天心の「茶の本」を挙げていることが想起される。「茶の本」の日本語訳は既にいくつか出ているが、昨年、大久保喬樹氏(東京女子大学教授)による新訳が出た。その「まえがき」で大久保氏はその今日的意義に触れてこう述べている。「当時の日本人一般がもっぱらその時代の日本という限

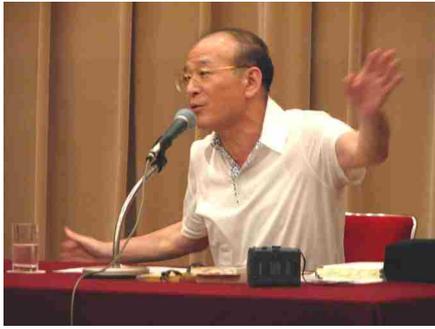
く茶道についてはほとんど注意が払われていない。戦争という恐ろしい栄光によらなければ、文明国と認められないというのであらば、甘んじて野蛮国にとどまることにしよう。私たちの芸術と理想にしがらみ敬意が払われる時を待つことにしよう。」平成の今日、「茶の本」から百年を経てその時が来たというべきであろうか。

第41回 全体例会

橋本五郎氏(読売新聞社編集委員)が講演

ポスト小泉と岩倉使節団

七月の全体例会は七月二十日(土)十三時より、日本プレスセンター十階ホールにおいて開催された。出席者は五十三名。まず泉代表より①DVD制作②国際シンポジウム③ホームページ開設など最近の会運営状況に触れての挨拶があり、引き続き会務報告、および読売新聞の橋本五郎氏による講演が行われた。会務報告の要旨は以下のとおり。



橋本五郎氏

①実記を読む会(桑名幹事)；現在、第三巻「パリ編」を読んでいるところ。研究会も回を重ね、十月には第百回の記念の会を迎えることになった。そこで百回記念懇親会を計画しているが、詳細は追って皆さんにご連絡する

ことにしたい。(十月第一木曜日、場所は国際文化会館を予定)

②英文実記を読む会(幹事小林)；現在四十回までできた。今年三月、五月の両月、在日しておられたコルカトト教授に参加していただくことが出来、有意義な会合を持つことが出来た。

③歴史部会(永富幹事)；薩摩歴史ツアーは成功裏に終了。七月は会員報告(報告者、石川氏)、今後も会員報告により九月、十月、十二月に部会開催予定、詳細は追って連絡する。

④現未来部会(小田幹事)；五月(報告者、泉氏)、七月(報告者、塚本氏)の両例会ともに会員報告による問題提起と討論行い、活発かつ有意義な議論が出来た。

⑤青年部会；幹事欠席により省略

⑥国際部会(井出幹事)；発足以来三月二日、五月十一日、七月十三日と実績を重ね、会運営もどうにか軌道に乗ってきた。次回は十月頃を予定。

⑦総務部会；楠木幹事よりホームページ開設状況報告、

講演要旨

山田幹事より「国際シンポジウム」準備状況報告(文責) 山田哲司

いまや最大部数を誇る「読売新聞」に「五郎ワールド」のコラムをもち、日本テレビでもコメンテーターとして特に女性に人気の高い橋本五郎氏。その講演は、時に高論に及び、時に人物論に及び、質疑応答も含め三時間、聴衆を飽きさせることがなかった。以下は講演の要旨である。

◆日本は今や歴史の分水嶺に立っている

「岩倉使節団」、政治の要路にある当局者がこぞ出て出かけてしまふ、しかもあれだけあちこち見て、それをまたちゃんと記録してきた、これがすごい。暴挙といえれば暴挙、非常識も非常識、どうしてあんな思い切ったことができたのか、驚くばかり。それは結局、独立を確保するため、植民地にならないため、その切迫感、危機感、使命感があつたからだと思う。いまの日本、それは歴史の分水嶺にたつていると思う。日本の歴史をみたととき、大きな節目といえ、誰もが、明治維新と敗戦後をあげる。しかし、平成の現代も大きな分水嶺にあると思う。これほど

人心が荒廃した時代はないのではないか、親殺し子殺し、無差別殺人、モラルの退廃、責任感の欠如・・・それから、自然も破壊されている、日本海岸を旅していてぞっとしたことがある、ずっと立ち木が枯れている・・・それは恐ろしい風景だつた。いまや、日本はかつての「廃藩置県」に類するようなスケールの大きな変換をやらなくてはならない時期にあると思う、だから岩倉使節団に学ぶことが多いのだと思う。

◆小泉純一郎は特異な総理、その功罪

小泉内閣は特異な政権だつた。中曽根内閣以来、長くて二年、短いのは二ヶ月しか続かなかつたのに、今度は五年も続いた。しかも、最後まで人氣が衰えない。さて、その小泉首相の特長は何だつたか、それを「四ナイ」だと私はいつている。一に、変えない。いったん言つたら変えない。ぐらぐらしない。でも、よほどの見通しや確固たる思想があるかと思うと、中身はない。そこが大問題。二に、迷わない。イラク出兵について、人質にとられて撤退を要求されたときも、ビクともしなかつた。私はたまにたまそのとき首相と会食をしていたが、少しも迷わず、毅

然としてはねつめた。これはたいしたものだと思つた。

三に、聞かない。人の意見を聞かない、ナベツネ(渡辺恒雄)やナカソネからいわれなくても聞く耳をもたない。靖国問題もそう、組閣にしても独りで決める。

四に、頼まない。人に頼まないから借りがない、借りがないから自分の思うとおりにやれる。大衆から支持を受けているとあれば、なんでもやる。借りがあるとすれば田中真紀子くらいだつたが、これは「押しかけ女房、悪女の深情け」というところもあり、まあ、外務大臣にして借りは返した。

小泉の功績をいえばいろいろある。政策決定機構を完全に変えてしまったこと。これはすごい。自民党の族議員のいうことを無視して、政策審議会を決めてしまつて抵抗勢力と戦つた。それから北朝鮮問題、政治的リスクを犯しても自ら乗り込んでいった、これは外交的には暴挙だとさえいえるが、私は評価している。今回のテポドン騒ぎでの国連決議までもつていった粘り腰についても八〇点はつける。それから金融危機を回避し、景気回復にこぎ着けたことも評価できる。しかし、肝心の日本をどのような国にしていくかとするのか、それ

DVD 岩倉使節団の米欧回覧 好評のうちに、九月下旬発売!

日本記者クラブ主催の 「試写会」、大好評!

日本記者クラブ主催によるDVD「岩倉使節団の米欧回覧」の試写会は八月二十六日(土)一時半より日本プレスセンター十階ホールにおいて開催された。

土曜日の午後にもかかわらず、元駐米大使、大河原良雄氏ご夫妻をはじめ各界著名のゲストや記者クラブのかたがた約百五十名の参加があり、熱心に鑑賞された。コーヒープレイクをばさんで約三時間、途中退席される方もなく、終演後には期せずして大拍手がわきおこり、主催者側の話ではこの種の会としては大変珍しいとのことだった。

九巻の上映後、泉代表が挨拶に立ち、添付映像の「岩倉使節団の肖像」について説明し、製

作担当の足立光正氏を紹介した。大ホールにおける大画面を使つての映写会は、映像も鮮明で迫力もあり、多くの方々より、内容、映像ともにすばらしいとのコメントをいただいた。

有力な教材、 大いに活用しよう!

DVD『岩倉使節団の米欧回覧』は、大量の静止画(当時の写真・絵画および現代の写真)とナレーションにより、一八七〇年代の旅を再現した画期的な作品となった。

上巻(八十八分)、下巻(七十七分)、計百六十五分よりなる構成・編集は素晴らしい、コンピュータ処理の映像効果もあり、完成度の高いものとなっている。

当会は十年前に設立された時から、その活動に映像はいつも欠かせず上映され今日に

至っている。最初はスライド、次にVTRとなり映像システムも変化し進歩を遂げてきたが、このほどDVDになったことでいつでもどこでも見やすくなり、当会の活動にとつて有力なツール(教材)が整ったことになり、新展開への大きな一歩となる。

さて、今後の問題としては、このDVDをいかに活用するかである。まず、会員一人ひとりが講師になつて、身近な会での上映会がある、友人、知人、同窓会、同好会など小さな会での上映会をしよう。

また、各種勉強会、異業種交流会、ロータリークラブやライオンズクラブの会合、商工会議所やJC、地域団体や各種団体、企業会社での研修などに活用を働きかけよう。

あるいは新聞社や公共団体など主催の上映会もできれば望ましい。

そして若い世代に見てもらうために工夫はないか。大学はむろん高校や中学校での上映会、そして、学校への寄贈も考えられる、いずれにしろこの貴重な教材を生かすために知恵を出しあおう!

尚、当会会員扱いの特別価格(一万五千元)も設定されているので、会員はむろんのこと友人、知人にもぜひ購入をすすめてください。

が見えない。目先の金目のごとに終始して、一番大事なところが欠けている。

密はどこにあるのか。実は私にもよくわからない。が、案ずるところ、こういうことではないか。

◆歴代首相はどうだったか? さて、歴代首相はどうだったか。田中角栄はすごかった。「列島改造論」を親孝行の哲学だといひ、高速道路と新幹線で地方を結ぶことで裏日本や地方を元気づけた。同じく北国(岩手)出身の私には共感ももてた。ただ、やりかたがまずかった...

一に、血筋がよい、毛並みがよい。これは意外と大きな要素なんだ。爺さんが元総理の岸信介、親父が元外務大臣の安部晋太郎。明治維新の立役者を生んだ山口の出身で、吉田松陰を尊敬している。

大平正芳は「田園都市構想」で、「静かな落ち着いたふるさと」を構想した。角栄とは無二の親友、肌合ひは全然違うけど、人間味のある、そして先輩を大事にする人だった。

二に、母性本能をくすぐる何かがある。酒は飲まない、アイスクリームが好きときて置けない「感じなのに、それがもてる原因らしい。

しかし、このあととは小粒でビジョンをもった人はいなかった。在任期間も長くて二年、短い人は二ヶ月だった。その中にもすごい人はいた。しかし、何がすごいかが問題だ。宮沢喜一は何でも知って

三に、それでいて毅然としたところがある。北朝鮮に対しても中国に対してもどこか凛としたところがある、それで人気がある。

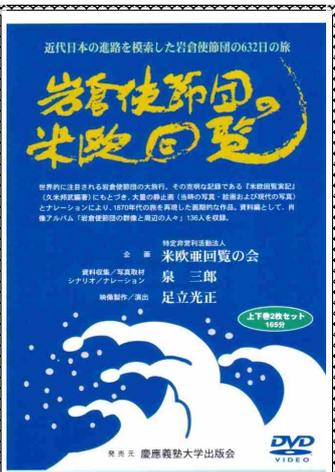
いる人、しかし人の気持ちかわからない、庶民の気持ちなど全然がわからない人。そして、決断のできない人だった竹下登はすさまじいばかりの気遣いの人。しかし、大きな政治的なことはできない人。

四に、人の意見を分け隔てなく聞く。私なんかの意見でも聞く。これは人心収攬術に長けているともいえる。が、あまり人の意見を聞きすぎるようではこれも困る。それに、最初から支持率が異常に高いのも不安である。

◆ポスト小泉は? 目下の情勢では、安部晋三になる。その安部の人気の秘

さて、ポスト小泉に期待したいのは何か。この国をどう示してほしいこと、幕末維新时期、戦後の混乱期、それに対処したような危機感、使命感で対処してほしいということである。

(写真) 泉三郎
(写真) 橋本吉信



価格 18,900円(税込)

- 企画 米欧亜回覧の会
- シナリオ/ナレーション 泉三郎
- 映像製作/演出 足立光正
- 発売元 慶應義塾大学出版会

国際シンポジウム

開催の狙いに共鳴し、積極的な参加を!

実行委員長 泉 二郎

○十年目の節目

当会は「米欧回覧の会」として設立されてより満十年、その活動はスライド上映会や旅行会、そして「実記を読む会」に始まり、サロンの雰囲気ですタートしたが、その後、日本近代史の研究としての「歴史部会」、現代の直面する問題について議論し考える「現未来部会」、そして「英訳実記を読む会」、青年を中心とする「青年部会」、外国人も交えての「国際部会」と展開して、徐々に研究会的要素を加えながら今日に至っている。

えて、九月にはDVD「岩倉使節団の米欧回覧」が発売となり、十一月には本国際シンポジウムが開催されることになる。

当会は本来「日本をよくしよう」という少しも志ある人たち」の集まりであり、サロンのな会として始まったものの、当初より「温故知新」をモットーに「歴史から学ぶ」ことを目的としてきた。そしてその十年の歩みと蓄積の上に今回の国際シンポジウムがあるといえる。

○シンポジウムの狙い

久米邦武は『実記』において、西洋文明が利益政治の社会であり、東洋文明は道徳政治の社会だと分析している。そして西洋人は「欲情がさかん」でトコトン快楽を追求するが、東洋人はバランスのとれた全的生活を目指すともいつている。日本は岩倉使節団以来百三十年、その間かなりの紆余曲折はあったとしてもいけば西洋文明をずっと追いついてきたといえよう。そして、いまや、その結果の姿、「もの豊かで心貧しい姿」、「玩物喪志の姿」がここに

また、二〇〇五年には、当会の企画、水沢周氏(当会会員)の訳出による「現代語版・米欧回覧実記」全五冊が完成し、慶応義塾大学出版会からリリースされた。そして本年、満十周年を迎

いま、われわれ日本人はこのまま西洋的近代化、アメリカングローバリゼーションに追従するのか、その功罪をしっかりと見極めて東洋の知恵を生かすべく方向を修正するのか、その岐路に立っているといえよう。今回の国際シンポジウムが「アジアからの視点」を重視するのもその点に意図がある。歴史から学び、それを未来に生かしていくために、このシンポジウムには是非積極的に参加してほしい。

○組織と分担

尚、実行委員の幹事分担は左記の通りであり、会員の皆さんの協力をお願いしたい。

・企画進行本部(泉二郎、山田哲司、藤原宣夫、塚本弘、井出亜夫)

・ゲストスピーカー関連(藤原宣夫、井出亜夫)

・会場設営受付関連(山田哲司、小田仁彦、小野博正、桑名博行)

・PR、広報関連(石川直義、永富邦雄、岩崎洋三、西井正臣、尾崎美千生、和田本聡)

・プログラム・チケット関連(足立光正、岩崎洋三)

・DVD上映関連(浅沼晴男、足立光正)

・飲食接待関連(多田幸子、小野博正)

・記録関連(楠木孝雄、中山進、小林養文)

グローバルジャパン研究会

スタート!

これは十一月開催の国際シンポジウムに関連して、サントリ文化財団から助成が決定したことに基づき、急遽、期間限定の特別研究会として発足したものである。

テーマは、「世界の中の日本人の役割ー西洋的近代化を超越する思想を求めて」で、泉二郎氏を中心とした会員有志でメンバーを編成し、芳賀徹、五百旗頭真、松本健一氏らの賛同も得て、二〇〇六年三月までの期間、研究会をかね報告書を作成する。

本研究会は国際シンポジウムの準備の意味も兼ねており、すでに二回の研究会を実施、以降は次のようなスケジュールで進行予定である。

◎八月二十二日(火)

十四時〜十七時

日本プレスセンター会議室
講師 芳賀徹 京都造形芸術大学学長

「ポール・クロードルが見た美しき日本」

◎九月十三日(水)

十八時三十分〜二十一時

国際文化会館
講師 国分良成 慶応大学 教授

◎十月四日(水)

十八時〜二十一時

「世界の中の中国と日本」



第1回研究会 (8月22日・プレスセンター)

日本プレスセンター会議室
講師 松本健一 評論家
麗澤大学教授

◎十月十日(火)

十八時〜二十一時

日本プレスセンター会議室
講師 石坂芳男 前トヨタ自動車副社長(当会 会員)

「EAST AND WEST」

◎十一月二日(木)

十八時〜二十一時

日本プレスセンター会議室
講師 山崎渾子 聖心女子大学教授(当会会員)

以降は、国際シンポジウム(十一月二十三日、二十四日、二十五日)を挟んで、十二月より、また再開の予定。

なお、研究会は会員限定の二十五名を上限として先着順で受け付けているが、オプザーバー参加も若干名考慮しており、希望者は事務局まで申し出てください。

トップページのデザインを刷新、 十月からリニューアル版ホームページ

かねての懸案だった当会のホームページがリニューアルされることになった。再編される基本的な構成やデザインは九月中旬にでき、十月初旬には新しいホームページに刷新される予定である。

現在のホームページは、二〇〇〇年、創刊号からのニュース・バックナンバーを手分けして入力し、相澤眞人氏が徹夜で作業して四月例会で披露され、立ち上げられたものである。主に会員を対象としたメディアとして、青年層や地方・海外在住者など部会などに出にくい人にも参加の機会を提供することが意図された。

その後、専門的な知識を有する人や専断的にメンテナンスできる人が限られ、季刊のニュース更新が中心となっていた。今や、年代を問わずインターネットやメールが広く



普及する時代となり、NPO法人としても会員のみならず広く外部に働きかけるメディアが求められるようになってきた。そこで、ホームページ・リニューアルに向けた会合が何回か開かれ、基本方針が決定され、相澤眞人氏が契約の切替えや業者とのディレクションを担当することになった。

リニューアルされて大きく変わるところは、外部に向けたメディアとして基本構成を再編した点にあり、表紙となる「トップページ」、「(当会)メッセページ」、「活動と内容」、「岩倉使節団」、「米欧回覧実記」のトップ面がプロのデザインとなる。また、サイト内のキーワード検索も出来るようになり使い勝手も向上する。

現在のホームページの中心となつていく会報バックナンバーなどは「会員のページ」として残ることになるが、現在あまり活用されていない掲示板(サロン)は経費削減および投稿に対応できる体制が整わないなどの理由で廃止される。その経過措置として、また、季刊のニュースでは間が空きすぎる部会報告・案内

などを伝えるために、楠木孝雄氏が月刊のメルマガジン編集し、九月までに十五回発行されている。催し案内などは事務局体制が整い次第、リニューアルされたホームページに順次移行され、メルマガジンは掲示板にかわる意見交換のあり方を探ることになる。

このように、ようやくホームページのフレームが刷新されることになったが、中身となるページを充実し、ニュー・メディアとしての威力を発揮する為の人的な体制づくりが次なる課題となる。多くの方の協力をお願いしたい。(文責) 中山進

実記を読む会

十月で第百回

当会の原点の活動であり、設立当初から続けられていた「実記を読む会」が次回で百回目となり、「読む会」および当会にとつての大きな節目を超えることになる。第百回の十月五日(木)に記念懇親会を国際文化会館で開催する。参加予定者は二十八名。

薩摩歴史ツアー文集できる

前号で報告した、五月十八(二十日)に行われた国内歴史ツアーの、「薩摩の旅記念文集」が発行された。

歴史ツアーの記念文集は、二〇〇四年の「松前の櫻と北

書籍案内 山崎渾子著 岩倉使節団における 宗教問題 (思文閣出版)

当会の会員でもある山崎渾子氏の長年の研究成果がまとまり、このたび著書が思文閣出版から上梓された。

A 五判・二百五十頁、三千九百九十円(税込)

【内容】

神道皇国主義を宣言しキリスト教禁制のまま諸国歴訪に出かけることになった岩倉使節団は、その後の明治政府の宗教政策にどのように影響を与えたのか、『米欧回覧実記』を中心とした使節団関係史料を読み込むことで検証する。

【目次】

- 一 岩倉使節団の出発
- 二 維新政府とキリスト教対策
- 三 情報収集と諸外国公使との折衝



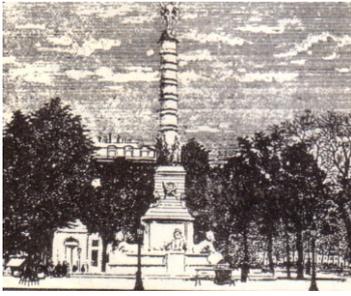
ローマの聖ピエトロ教会とヴァチカン宮
(『実記』第75巻)

- 四 太平洋上の議論とアメリカでの新聞論争
- 一 留守政府とキリスト教問題
- 二 ヨーロッパ歴訪と宗教観の変化
- 三 『米欧回覧実記』編者久米邦武の宗教観
- 四 文部省編『理事功程』に見る宗教関係記事
- 目 岩倉使節団と信仰の自由認識の深化
- 一 『明六雑誌』に見る宗教観
- 二 岩倉使節団帰国後の信仰の自由政策
- 三 日本の伝統と久米邦武の神道観

薩摩の旅記念文集



保護製図版の図



『実記』セイン河岸ノ遊苑
(此ヨリ下水ノ樋ニ下リ入ル)

語訳・桑名評言を混交・纏約したプリントを全巻通読。十五日、使節団はサン・シール陸軍学校訪問の帰路、ヴェルサイユ宮殿を一覧、略説しているが、「亦一日二日ノ尽ストコロニアラサルナリ」。十六日、一転、パリの下水道を探訪(本巻の白眉)、その折の久米の叙述が卓抜で、「亦巴黎ノ壯觀中ノ一タリ」、されど「洞ヲ出ルトキニハ、皆人ノ膚、血色ナカリキ」。街路・公園・建造物及び上・下水道拡張はパリ大改造の主柱、第二帝政の輝かしい功績と指

実記を読む会報告

連絡 桑名 正行

Tel&Fax 03-3642-9570

mkuwana@nifty.com



■第九十八回

七月六日、出席者十三名。第四十五巻パリ市の記(四)を桑名さんが解説。一八七三年一月十五日(十八日の四日間を、初の試みとして久米原文・水沢

摘。十七日モン・ヴァレリアン砲台、十八日ヴァンセーヌの兵営。これらの訪問は使節団が軍事に強い関心を寄せていた証左。冷徹なパワー・ポリテクスを意識しているもの、中立国米国の銃器を見て、国家間の権謀術数を否応なく悟らされる。第四十七巻パリ市の記(六)は金本さんの報告。一八七三年一月二十一日、ゴブラン織り工場見学。ゴブランの概略とその技法の懇切な説明。壮大なゴブラン・タピスリーは桃山期の永徳・等伯の障壁画を想起させる。次いでチョコレート製造工場見学。久米の関心事は、チョコレート談義よりもむしろフランス植民地との貿易で、「仏国属地・・・英国ノ如ク広大ナラザルヲ以テ、世人ハ多ク忽略シタリ」とし、そのあらましを記す。ここで久米は、植民地産品の相場変動を介しての、いわゆる植民地収奪の仕組みを見抜き、「購買の時機を見誤らぬように」と諭す。久米を含め幕末・維新の俊英は、いずれも抜け目がなかった。二十二日、天文台訪問(音読)の後シテ島の裁判所で法廷の模様を見学。日本との相違に言及。さらに刑務所「牢室ノ数、大小五百区アリ」を訪問。総じて丹念な報告と、周到な後記メモは金本さんの力作。(「実記を読む会案内」より)

英訳実記を読む会報告

連絡 岩崎 洋三

Tel & Fax 03-3488-0532

zaa96087@oak.zero.ad.jp



■六月例会

六月二十二日に第三十九回読む会を開催。出席者は七名で、第二巻イギリス篇の二十八章マシエスターの記その一の後半から二十九章マシエスターの記その二の前半までを朗読した。裁判所、牢獄の見学、踏み水車による懲役の様子が語られ、また禁酒禁煙同盟から日本における運動の展開の要請を受けたことが記されている。英訳文の注に、禁酒に関連して孟子の引用などあり、英語で実記を読むにも中国古典の理解が必要であることを改めて痛感した。かねてより作業を進めていた、英訳本に新たに付加された注の和訳第一巻分のまとめが完成した。

■七月例会

七月二十日に第四十回読む会を開催。出席者は六名とややさびしかった。第二巻イギリス篇の二十九章マシエスターの記その二の後半を読み進んだ。輸出には手抜きのない商品梱包が重要との指摘があり、綿布染色、織布工場の見学、ゴム工場の見学、ウエアハウス、刑事裁判所、オーエンズ大学の訪問などが記述されている。中

現未来部会報告

連絡 塚本 弘

Tel 03-3211-2765 Fax 03-3213-1371

hiroshi_tsukamoto@jetro.go.jp



も天然・合成各種染料や染色法の説明があり、久米の表現する名称からでは分りにくい色彩について、見本帳で紹介があつて理解が助けられた。八月は夏休みで休会。(文) 小林養文

括的に日本の国家像を論じた。第二回は五月十六日に、泉代表から「今、日本で最も憂慮・問題とすべきことは何か」という問いかけを切り口として、国造りの焦点・狙いどころを論じた。今回は、塚本幹事が「外交の基本的な考え方」として、外交の目的と手段、外交についての重要なポイント、そして国民性が外交に及ぼす影響等について報告。活発な討論を行った。何のための外交なのか、平和目的か、安全保障の外交政策のあり方には色々な選択肢がある。例えば北朝

青年部会報告

連絡 山本 陽子

mase@yhb.att.ne.jp



鮮問題に例をとっても、強硬路線から柔軟路線まで幅がある。更に外交の効果を挙げるためにはやはり力を必要とするがその力のあり方を分析すると、軍事力、経済力、そして文化力ではないかといった整理もされた。十月に(その四)として、まとめの部会を予定している。(文) 小田仁

八月十一日、今後の活動・運営について話し合いを行った。隔月で、小セミナーと実記の現代語訳を読む会を行って、幹事を決めて運営を分担すること、新メンバーに部会の趣旨を説明する資料を作成することなどを決めた。これについては、十月に行う青年部の合宿で最終の話し合いをする予定である。九月一日は、現代語訳を読む会で、リパールの記(上・下)を読んだ。青年部会のメンバーだけでは、予備知識も乏しいため、シニアの方々のお力添えを賜りたい。(文) 岡松 暁子

歴史部会報告

連絡 小野 博正



hiro-ono@hyper.ocn.ne.jp

今回より、歴史部会は、四回連続の「日本のアイデンティティー」を求めたのシリーズとした。

第一回(七月二十日)国際文化会館を、会員・石川直義氏に『新渡戸稲造と士魂』をお願

張し、新渡戸は国際主義を主張して、国際連盟の事務次長として、平和を守る運動に邁進した。新渡戸の『武士道』は、日本人の魂を、妻のメリーや外国人に分かるように英語で書かれ、金子賢太郎にこの本を薦められた米セオドル・ルーズベルト大統領は感激して、直ぐに三十冊を購入して、周りの人に配ったといわれる。

新渡戸の核心は礼にあり、『礼とは、他人の気持に對する思いやりを見える形に表現したもの、礼は長い苦難に耐え、親切で人をむやみに羨ま

ず、自慢せず、思い上がらない。自己自身の利を求めず、容易に人に動かされず、おおよそ悪事というものをたくらまない』精神にあるとして、新渡戸がその思想を得るに至った生涯を丁寧に通った。

宗教が愛も生めば、戦争も生む現実について、参加者の中から、色々と活発な議論がなされた。

次回以降は、九月十九日(火)『天皇制と道教と祭天の古俗』(小野博正)、十月二十日(金)『岡倉天心と山本七平』(泉三郎)、十二月八日(金)『東京裁判史観』(永富邦雄)の順で、いずれも国際文化会館で、十八時〜二十一時で開催の予定。

(文) 小野博正

国際部会報告

連絡 井出 亜夫



ide@gsb.nihon-u.ac.jp

第三回部会

七月十三日、フランス大使館ジュールマン・ジュール氏を招いて開催。氏は、大胆な問題提起として、フランス人権宣言、明治維新五箇条の誓文は、日仏両国において封建社会から近代社会の誕生をもたらした重要な文書(テキスト)であるが、大きな違いがあるとした。

①人権宣言は、フランス市民階級(上層ブルジョア)によって採択されたものに対し、ご誓文は天皇側近によって起草され、臣民に付与されたものである。

②人権宣言は、封建社会と領主の特権を廃し、市民の自由・平等の権利を謳っている。その目的は、主権が王や神になく国民にあることを示すことにある。一方、ご誓文は、日本の近代化の達成、外国からの干渉に対し、幕府システム後の天皇の権威を回復することに主眼があった。

③人権宣言は、哲学・思想において、ルソーの自然状態で賦与されている権利、モンテスキューの自由主義、啓蒙主義に影響され、フランス人に

(文) 井出 亜夫

限定せず人類全体に及ぶ考えを示した。一方、ご誓文は、ポスト幕府の社会組織のあり方を念頭において、封建階級の解消、議会の設置、職業の自由化等を謳った。

④同じ封建社会からの離脱に決定的意味を有する両文書であるが、当時の日本とフランスをめぐる地政学上の違いを理解しなければならぬ。それゆえに、国際的アピール、普遍性に両者の違いがある。

これに対し、大きく分けて、二つの疑問、観察が提起される。

①このような人権宣言、それに続くフランス革命にも拘らず、フランスは、ナポレオンの帝政、さらには王政復古、第二帝政への途が開かれた。このように歴史は一直線に進展するものでないことは、今日の事例を含め、歴史上至るところで観察できる。

②人権宣言と西欧による植民地開拓、帝国主義は、如何に解釈されるべきか。今日、帝国主義、植民地主義は、厳しく批判されるものであるが、当時の欧米人には(社会主義者をも含めて)植民地への進出、未開地への啓蒙主義の一環として意識され、捉えられていたようである。この点については、更なる議論の展開が期待される。

(文) 井出 亜夫

関西支部報告

連絡 北村 彰一



shou1@f7.dion.ne.jp

例会報告

七月二十六日、参加者十二名。第一編アメリカ合衆国の部の第十四巻「北部巡覧の記、上」を読む。一行はニュージャーシーからニューヨークへハドソン河を渡ることになるが、人を載せた馬車がそのまま運ばれるフェリーを体験して大いに感激する。マンハッタンに着くと蒸気鉄道が街上の高架橋の上を往来するという立体化した都市に感心し、世界に類がないブロードウェイと往來の終日の喧騒ぶりに驚く。

久米は「シカゴの穀物市場などは賭博的でもありニューヨークの市場も安定していない。」と、市場経済には懐疑的なスタンスも伺われる。佐賀藩の大阪屋敷での経験から、手形など商業の基本的な知識を身につけていたのである。とうとう言う発言があった。

ついで、セントラルパークの設計について、West Pointの陸軍士官学校とマッカーサー、そして、最近のNHKで放映された薩英戦争の処理について話題になった。

(文) 難波 康熙

特定非営利活動法人

「米欧亜回覧の会」ご案内

- 趣 旨** この会は「岩倉使節団」に興味をもち、その記録である「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。
この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。
この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。
- 会 員** 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。
- 例 会** 年に4回くらい全体例会をもちます。
- 部 会** テーマ別に読む会、歴史、現未来、総務部会等があり、映像サロン・勉強会・旅行会・研究会・シンポジウムなどを行っています。
- 機関紙** 年に4回程度機関紙を発行し活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。
- 役 員** 理事長(泉三郎)他理事および監事で構成、会員の中から幹事十数名を選び、運営を担当します。
- 会 費** 年会費5,000円とし、主として通信費及び機関紙代に充当します。例会・部会・講演会などについては、その都度の会費とします。なお、遠隔地居住者、学生、仮入会希望者には準会員(年会費3,000円)の特典もあります。
- 事務局** 「イズミ・オフィス」に置きます。
〒192-0063 八王子市元横山町1-14-16
E-mail: info@iwakura-mission.gr.jp
TEL: 0426-46-3310
FAX: 0426-45-8700
- 入会申込**
入会申込書は事務局にあります。新規入会に際しては入会金5,000円を頂きます。
なお年会費などのお支払は郵便振込が便利です。
00180-2-580729 特定非営利活動法人米欧亜回覧の会

ホームページ: <http://www.iwakura-mission.jp>

(催し案内続き)

☆関西支部例会

日 時: 10月11日(水)

場 所: 大阪凌霜クラブ会議室

<催し案内>

2006年9月～11月の予定です

☆国際シンポジウム(詳細4頁)

日 時: 11月23日(木)～25日(土)

第1日: 国際文化会館講堂 13:00～

セミナー1・DVD上映会(会費3000円)

第2日: 国際文化会館講堂 10:00～

セミナー2、3(会費3000円)

懇親パーティ(会費6000円)

第3日: 学術総合センター 10:00～

公開フォーラム(会費3500円)

☆グローバルジャパン研究会(詳細4頁)

日 時: 10月4日(水) 18:00～21:00

10月10日(火) 18:00～21:00

11月2日(木) 18:00～21:00

☆実記を読む会

日 時: 10月5日(木) 18:30～21:00

*100回記念懇親会(会費3000円)

11月9日(木) 18:30～21:00

場 所: 国際文化会館

☆英訳実記を読む会

日 時: 10月12日(木) 18:30～21:00

場 所: 財)統計研究会会議室

港区新橋1-18-16 日本生命ビル7階

☆歴史部会(詳細8頁部会報告)

日 時: 10月20日(金) 18:30～21:00

12月8日(金) 18:00～21:00

場 所: 国際文化会館

☆現未来部会

日 時: 10月26日(木) 18:30～21:00

場 所: 日本貿易振興機構(ジェトロ5階会議室)

☆国際部会

日 時: 10月21日(土) 13:30～15:30

場 所: 日本大学本部9階903号室

千代田区九段南4-8-24

テーマ: 平成の岩倉使節団報告

ゲスト: 橘 幸信氏

衆議院法制局第3部長(兼憲法調査会担当)

編集後記

◇当会が設立して十年を過ぎました。例年なら全体例会の開催日程は十月ですが、十一月の十周年記念国際シンポジウムが例会を兼ねた、全員の力を結集する取り組みの場となります。

◇二〇〇一年の五周年記念国際シンポジウムが昨日のことのように思えますが、その後、英訳実記を読む会、青年部会、国際部会が誕生して、前号に続いて催し案内のスペースが足りなくなりました。また、当会企画の「実記現代語訳」をはじめとする出版物が刊行され、主要なメディアである映像もDVD「岩倉使節団の米欧回覧」となっており、このニュースが届く頃には市販が開始されます。NPO法人化を含め、五年前に構想として語られていたことの多くが、確実に実現しています。

◇遅れていたホームページのリニューアルも、十月には外部に向けた新しい姿として刷新されることになり、メディアを担当する者としてほっとしています。中心となった相澤さん、そして、ホームページ停滞を補う形で始められたメルマガを、昨年七月から遅れることなく月初に配信された楠木さんの尽力に感謝します。(N)